



遺跡見て歩きマップ



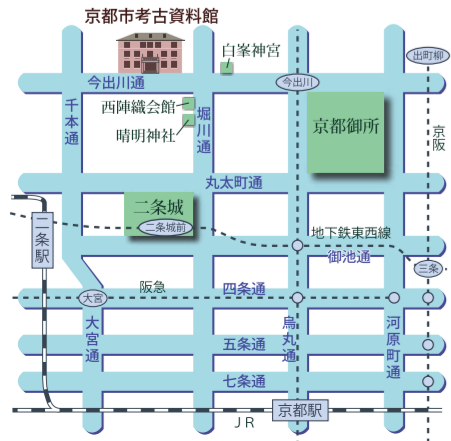
発行：京都市考古資料館



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1500点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄丸亀線 今出川駅下車徒歩15分
市バス101・102・201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



千本

千本通は平安京の中心を南北に貫く朱雀大路の上に継承された通りです。千本通の由来については、日藏という修験僧があので、菅原道真を左遷したことで苦しんでおられた醍醐天皇から、生き返ったなら尊いお経と卒塔婆を千本、蓮台野に立てて供養するように依頼されたという伝承が元になったとされます。おそろくいつのころからか、船岡山西麓の葬送地であった蓮台野に供養のための卒塔婆が千本(多数)建てられたことに由来するのは確かでしょう。

今出川通以北の千本通界限では、平安時代から室町時代に創建された寺院が今も点在しています。大報恩寺は千本釈迦堂とも呼ばれ、桁行五間、梁行六間、正面に向拝を設けた檜皮葺入母屋造の本堂は、安貞元年(1227)の上棟で、京都市内では数少ない鎌倉時代の建物です。応仁の乱でも焼亡をまぬがれた洛中最古の建造物として国宝に指定されています。この旧境内で実施された発掘調査では、戦国期の大規模な堀跡が発見されています。石像寺は釘抜地藏とも呼ばれ、庶民の苦しみを抜いてくれる信仰がまつまった寺院です。苦しみが釘となり、釘抜地藏となりました。本堂の壁一面に鉄釘と釘貫きが貼られており、衆目を引きま。引接寺は千本糸んま堂とも呼ばれ、巨大な閻魔像が人々を見下ろしています。地獄の裁判官である閻魔大王の存在は、この寺が葬送地である蓮台野の入口に位置し、現生とあの世の境界であったことによるものでしょう。上品蓮台寺は千本通りの西側に位置します。かつては広い境内に塔頭が12院あり、そのことから紫野十二坊町の町名が生まれました。境内には仏師定朝墓や北端に源頼光の土蜘蛛退治にまつわる頼光塚があり、周囲には石仏が多数集められています。庶民の願いが込められたこれらの石仏からは人々の強い信仰心が伝わってきます。

西陣

京都市考古資料館が建つ一帯は西陣と呼ばれます。資料館前に建つ大きな石碑(西陣碑)には、西陣の由来が詳しく刻まれており、それによれば、かつて朝廷の大蔵省には織部司があり、綾錦や染物が作られたが次第に民間に移り大舎人織手師と呼ばれた。応仁の乱では山名宗全の邸宅が西陣の陣所となり、戦乱を避けて泉州堺に移ったが、明との貿易で大いに栄えた。乱後は西陣の白雲村に戻って明の織法を伝え、その後もインド・中国・西洋諸国に織物を伝えて西陣織は大いに発展したことなどが記されています。西陣の範囲ですが、東は堀川通、西は七本松通、北は北大路通、南は一条通または中立売通とされますので、京都市考古資料館が建つ今出川大宮の地はまさに西陣の中心に位置します。

京都市考古資料館は西陣織物館を改装して昭和54年(1979)に開館しました。前身である西陣織物館は西陣織物同業組合が施主となり、欧州で最新のモダニズム建築を学んだ建築家本野精吾に設計が依頼されました。大正3年(1914)に竣工した鉄筋コンクリート造りでレンガを外装に用いた3階建て建物は、周囲の町並と異なった景観を見せ、「マッチ箱の上にピラミッド」と評されました。西陣織物館では、西陣織の紹介や展示・販売、製造業者や問屋・呉服店等の仲介などが行なわれ、西陣地域の発展に大いに寄与しました。

なお、西陣碑と同じ内容の石碑が南東約200m、西陣織会館の正面にも建てられており、とりには「村雲御所跡」碑も建てられています。村雲御所は、豊臣秀吉の甥で高野山で自害した豊臣秀次(1568~95)の菩提を弔うために建立された門跡寺院で、宮家や摂関家から入寺があったことからこの名がつけました。

室町殿(花の御所)跡

室町殿は足利將軍邸の通称です。2代將軍足利義詮が「花亭」と呼ばれた室町李顯邸を別邸としたことから始まり、崇光上皇に献上されたことから「花の御所」と呼ばれました。3代將軍義満は御所と南側の今出川公直邸「菊亭」を買い上げ整備しました。邸宅の範囲は東が丸鳥通、西が室町通、南は今出川通(古くは北小路)、北は上立売通(毘沙門堂大路)となり、正門が室町通に面したことから「室町殿」と呼ばれました。史料には、花邸、北御所、南御所、下宿所、下亭など、南北2つの区画で構成されたことや、寝殿、中門、透渡殿、対屋、釣殿、東向小御所、泉殿の建物名から、貴族邸宅風であったこともわかっています。

6代將軍義教はさかんにここを利用し、造作に励みました。8代將軍義政は、長祿・寛正の飢饉(1459~61)の最中に大改造し移り住みます。応仁の乱(1467~77)が始まると、後花園上皇・後土御門天皇が避難し、天皇・上皇・將軍が同居する仮の内裏となりました。東軍の陣所となった室町殿でしたが、文明8年(1476)に焼亡します。文明11年に再興されますが、翌年また類焼し、義政は庭石や大松を東山殿に運ばせてそれ以後は放置されました。12代將軍義晴の頃に再建されますが、規模は縮小していたとされます。

洛中洛外図屏風の中には室町殿を描いたものがあり、有名な上杉本(1560~70年頃成立)には北東側からみた室町殿が描かれています。北半部は檜皮葺の東西棟が建ち並び、南半部には庭園が描かれ、室町通の2つの門のほか、東面(丸鳥通)と北面(上立売通)にも門が開きます。ここに描かれた室町殿は12代將軍義晴によって造営された室町殿と考えられます。

応仁の乱 対立関係

	西軍(山名方)	東軍(細川方)
將軍 間 題 後	義視よしみ (義政の弟、浄土寺義尋、還俗)	義政(8代將軍) 義尚よしひさ (9代將軍、母日野富子)
の 実 力 立 者	山名 宗全(持世 侍所所司) 8か国の守護	細川 勝元(管領) 幕府の実力者
家 督 相 続 争 い	畠山家 持国もちくに 没後 義就よしひろ(よしなり 持国の庶子)	政長まさなが (持国弟持世の子)
主 な 武 將	斯波家 義隆よしたけ 没後 義廉よしかと(浜川義鏡の子)	義敏よしとし (義隆弟持種の子)
	山名教之・政清 大内政弘 一色義直 六角高頼 畠山義統 朝倉孝景(1471~東軍) 土岐成頼	細川成之・勝久・成春 細川政有・教春・道賢 京極持清・骨皮道賢 赤松政親 富樫政親 武田国信・信賢 安富元綱

応仁の乱 略年表

嘉吉元年(1441) 6月	赤松満祐が將軍義教を殺害(嘉吉の変)。
9月	山名宗全に攻められ赤松満祐が自害。徳政一揆が発生。
文安4年(1447) 7月	山城西岡で徳政一揆が発生。
享徳3年(1454) 9月	京都で徳政一揆が発生。
11月	義政、山名宗全を討伐を決するが細川勝元の嘆願で撤回。
長祿元年(1457) 10月	京都で徳政一揆が発生。
長祿4年(寛政元、1460) 閏9月	義政、畠山義就討伐へ、義就は河内獄山城に籠る。
寛政3年(1462) 9月	土一揆が蜂起。
寛政4年(1463) 9月	土一揆が徳政を強訴。
寛政5年(1464) 12月	義政の弟、浄土寺義尋(義視)が還俗。
寛政6年(1465) 11月	日野富子、義尚を生む。
寛政7年(文正元、1466) 9月	伊勢貞親らが京都を追われる(文正の政変)。
12月	畠山義就が軍勢を率いて上洛。
文正2年(応仁元、1467) 1月	畠山政長が抛る上御霊社を畠山義就らが攻める(御霊合戦。応仁の乱始まる)。
5月	室町殿の東軍と山名邸の西軍が合戦(上京の戦い)。
8月	大内政弘が入洛。西軍に合流。義視が伊勢に出奔。
9月	岩倉山の東軍を西軍が攻める(東岩倉の戦い)。
10月	相国寺の東軍を西軍が攻める(相国寺の戦い)。最大の激戦となり死傷者多数出る。
応仁2年(1468) 9月	船岡山の西軍を東軍が攻撃(船岡山の戦い)。
11月	義視が西軍に迎えられる(西幕府が成立)。
文明2年(1470) 7月	大内政弘が南山城に侵攻。
文明3年(1471) 5月	朝倉孝景が東軍に寝返る。
8月	西軍が南朝皇胤(小倉宮)を迎える。
文明5年(1473) 3月	山名宗全が死去(後継政豊)。
5月	細川勝元が死去(後継政元)。
12月	義政、將軍職を義尚に譲る。
文明6年(1474) 3月	山名政豊と細川政元が和睦。
4月	堀川的一条橋が再建。
7月	戦闘が再発。西軍が陣を構える。東軍も放火。
文明7年(1475)	この年、地震、火災、大風、洪水が多発。
文明8年(1476) 11月	室町殿が全焼。
文明9年(1477) 9月	畠山義就の軍勢が河内に下る。
11月	土岐成頼と大内政弘の軍勢が領国に帰還。(応仁の乱が終息)



A 西陣碑



B 観世稲荷社駒札



C 千両ヶ辻の説明板



D 西陣船はし碑



E 西陣碑(複製)、村雲御所跡碑



F 山名宗全旧跡碑



G 山名宗全邸址碑



H 百々橋礎石(整備前)



I 御霊神社前の石碑



J 御霊神社境内の石碑・説明板



K 室町殿跡の遺構展示施設



L 花乃御所碑(大聖寺門跡境内)



M 相国寺水路の石垣遺構(移築・復元)



N 足利將軍室町殿址碑



O 小川児童公園の説明板



P 小川なかよし広場の説明板



Q 応仁永正戦跡 舟岡山碑



R 史跡船岡山碑



S 弁慶腰掛石(個人宅、非公開)



T 禁裏道場蹟碑

1 大報恩寺

承久三年（1221）、藤原秀衡の孫・義空上人が小堂を構えたことに始まります。通称、千本釈迦堂の名で知られています。応仁の乱で諸堂が焼失するなか、本堂は残り、洛中に現存する最古の仏堂建築として国宝に指定されています。2005年に旧境内推定地の西部で発掘調査が行われ、戦国時代の大規模な堀跡や墓跡が発見されました。この堀跡は、旧境内の西限を区画する堀跡とみられています。また、奈良時代の土器も見つかっており、大報恩寺建立以前の遺跡の存在も伺われます。



発掘調査の様子



戦国時代の堀跡

2 大徳寺旧境内

大徳寺は元応元年（1315）に創建された禅宗寺院です。後醍醐天皇の厚い保護を受け寺域を拡大し、伽藍が整えられました。2008年に大徳寺境内の玉林院本堂で発掘調査が行われました。調査の結果、江戸時代の堀跡や平安時代の土坑などが見つかりました。堀跡は元和年間（1615～1624）作成の「玉林院古図」に描かれた本堂玄関に取り付く堀とみられています。平安時代の土坑の存在は当地に雲林院に関連する施設があったことが伺われます。



東西方向に延びる江戸時代の堀跡



江戸時代の堀跡と門跡（手前の石積が門跡）

3 上京遺跡

上京遺跡は室町殿や公家・武家の邸宅などが建ち並ぶ中世・近世の都市遺跡です。東は相国寺境内、西は智恵光院通、南は一条通、北は上御堂前通に囲まれた範囲です。2010年の堀川通西側の発掘調査では、室町時代と江戸時代の溝跡や井戸跡が発見され、土器や瓦も多量に見つかり、古絵図などから本阿弥家所領地とみられています。また2013年の上京区総合庁舎改築に伴う発掘調査では、元和六年（1620）にあった火災後の廃棄用に掘られたごみ穴や溝跡などが発見されました。江戸時代初めの古絵図や古文獻などから、調査区の南側は町家、北側は武家の屋敷地であったとみられます。



3-1 細川典厩家跡 戦国時代の遺構



3-2 本阿弥家所領地跡 室町時代から江戸時代の遺構



3-3 元誓願寺通大宮東 平安時代から鎌倉時代の遺構



3-4 武者小路北側の調査 室町時代の遺構



3-5 武家屋敷地跡 江戸時代初期の遺構

4 室町殿（花の御所）跡

永徳元年（1381）足利義満により室町幕府の御所である「室町殿（花の御所）」が造営されました。1979年には地下鉄烏丸線の調査で初めて室町時代前期から後期の池状遺構が見つかりました。1985年の調査では庭石や池の汀線が、1986年には整地層や庭園の一部が見つかりました。1989年には東西方向の堀、その北側で石が詰まった遺構が東西方向に並び、付近では景石・築山が見つかりました。2018年には南北方向の堀が見つかり、室町通に沿って堀がめぐっていたこともわかってきました。同志社大学構内では、寒梅館建設に伴う調査で石敷き遺構が見つかり、室町殿の北限を示す遺構として注目されます。石敷き遺構の一部は寒梅館の北東隅にガラス屋根を設けて保存され、見学できます。



4-1 発見された西を限る南北堀の一部



4-2 景石を伴う庭園跡と石組遺構（右側の白い大石が景石）

5 相国寺旧境内

相国寺は永徳2年（1382）將軍足利義満によって発願され、室町殿の東側に10年後の明徳3年（1392）に完成しました。しかし創建以来六度に及ぶ焼亡と再建を繰り返したことから、境内の伽藍配置や塔頭地割など、全容が記録された絵図は『寛政二年戌月塔頭敷地図』（相国寺蔵）が初見です。旧境内の発掘調査は現在までに数多く行われており、これまでに創建期から江戸時代の建物や井戸、溝などが発見されています。また旧境内の北西角に近い所で行われた1993年の発掘調査では堀状遺構と焼けた瓦、土器が出土しています。さらに2005年の境内北東部の調査では、飛鳥時代から奈良時代の建物跡や溝跡なども発見されており、平安京造営以前の出雲郷にかかわる遺跡として注目されます。



5-1 応仁の乱の戦火を物語る堀



5-2 旧境内北西での発掘調査の様子



5-3 重複する飛鳥時代の竪穴建物跡

